

宿根カスミソウ「雪ん子」の二度切り栽培

— 二番花を「母の日」までに収穫 —

1. はじめに

最近、宿根カスミソウでは新しい品種が導入され、品種の多様化が進んでいます。なかでも、「雪ん子」は茎が硬く、切り花品質が良いため、作付けが増加しています。

ここでは、「雪ん子」の二度切り栽培について検討したので紹介します。

2. 「雪ん子」栽培の現状

「雪ん子」は、8月から9月上旬までに定植し、年内に出荷する作型では、到花日数が短く、高品質の切り花が得られます。しかし、主茎間で開花時期にばらつきが見られます。

一方、9月下旬以降の定植では、到花日数が非常に長くなります。

そのため、一回だけの収穫が主流になっています。

3. 二度切り栽培の可能性

1) 低温処理苗の利用

低温処理苗を利用すると、開花促進効果が認められ、開花揃いも良くなります。そのため、一番花の終了が早まり、二度切り栽培に

有効です。

2) 蒸し込み期間と二番花の開花特性

蒸し込み期間を長くし、蒸し込み終了時の草丈を30cm程度にすると二番花の開花時期が早くなり、母の日までに収穫できます。また、二番花の切り花品質における蒸し込み期間の大きな影響は認められませんでした。しかし、立ち枯れ等の発生が認められ、腐敗株率が増加する傾向があります。

一方、蒸し込み期間が短いと、蒸し込み終了後の生育が遅れ、二番花の開花は5月中旬以降になります(表1)。

4. おわりに

「雪ん子」の二度切り栽培では、二番花の収穫が4、5月になります。しかし、この時期は、高冷地や冷涼地からの「雪ん子」の出荷はありません。今後は、立ち枯れ等の発生や腐敗を防止するための二番花の蒸し込み条件を検討します。

(育種部 宮本芳城)

表1 蒸し込み期間と二番花の開花特性

蒸し込み期間(日)	蒸し込み終了時草丈(cm)	蒸し込み終了時腐敗株率(%)	開花日(月・日)	草丈(cm)	節数(節)	切り花重(g)	花径(mm)
0	—	0	5.31	95.0	24.8	39.8	9.5
30	15.2	0	5.20	94.8	24.2	39.4	9.6
55	34.8	12.5	5.2	94.2	24.0	39.2	9.6

2001年8月27日低温処理苗を定植、一番花刈り込み：11月29日、開花日：50%切り花した日
蒸し込み：12月3日から夜間最低10℃で、トンネルによる蒸し込みを実施
二番花の栽培では、立ち本数を6本程度に調整

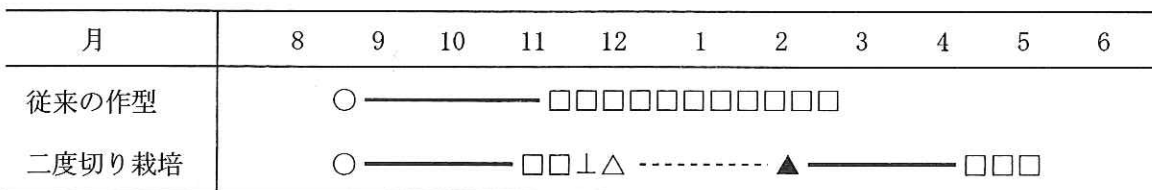


図1 「雪ん子」の二度切り栽培

例：○定植、⊥刈り込み、△ -- ▲蒸し込み、□□収穫